

令和5年度 数理・データサイエンス・AI リテラシープログラム

自己点検・評価報告書

令和2年度より開講した「数理・データサイエンス・AI リテラシープログラム」について、令和5年度の自己点検・評価を実施した。評価項目は文部科学省の「「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の創設について」3.3.1「認定教育プログラム」の要件(8)、および「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）実施要綱細目」3(6)の内容に準じた。

<評価体制について>

香川大学大学教育基盤センターは、教養教育の充実及び教養教育と専門教育の有機的連携を図り、香川大学の教育目標を達成するため、全学共通科目に係る企画、運営等を行う組織である。同センターは、本学の全学共通科目の授業実施を円滑に行うとともに、全学共通教育について自己点検・評価し、その改革・改善の方策について調査研究を行うことや大学教育の開発を行うことで、大学教育の質的充実に資することを目的とする。

<学内からの視点>● プログラムの履修・修得状況、学修成果に関する事項

令和5年度において、本教育プログラムの新規履修者は1272名、修了者数は1192名である。在学中の履修者は5034名、収容定員は5174名であることから、プログラム履修率（履修者数÷収容定員）は97.3%である（前年度から24.6%増加）。

令和4年度から引き続き、令和5年度は修了者数を向上させる方策がとられた。本教育プログラムを構成する「情報リテラシーB」において、課題締め切りなどを周知するメール連絡を高頻度で実施することで、学生の継続的な受講を促した。

※ 本教育プログラムを構成する2科目は全学必修科目であるため、「履修状況」は自己点検・評価の対象外としている。

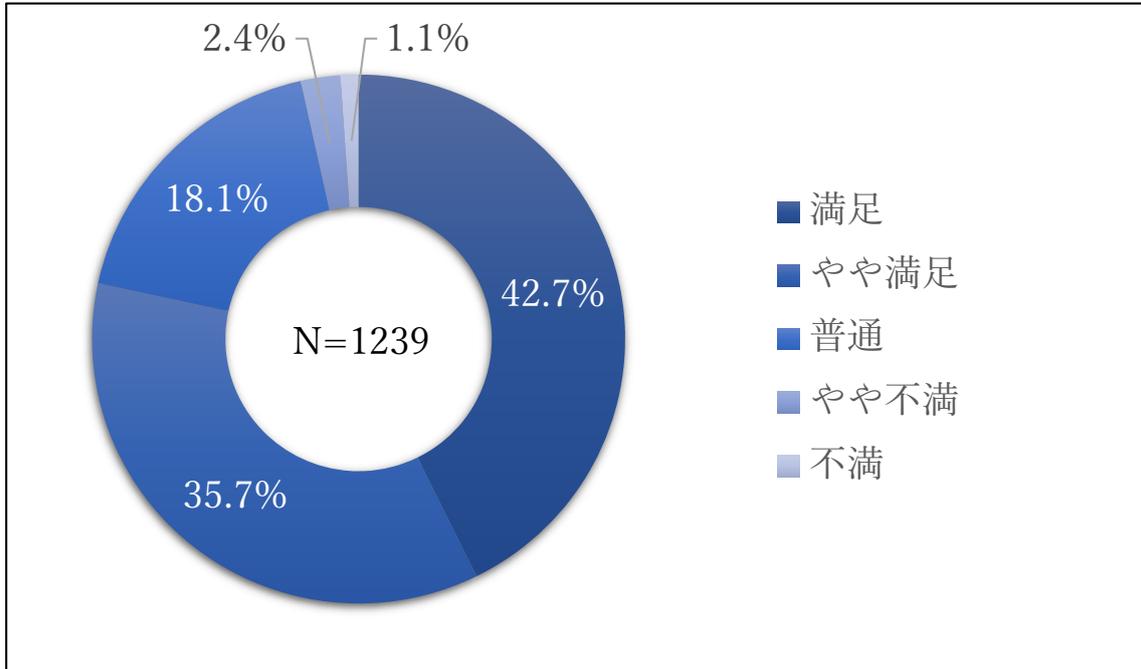
● 学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・後輩等他の学生への推奨度

香川大学の全学共通科目では、学生による授業評価アンケートを実施しており、科目ごとに理解度等を分析できる仕組みである。また、「情報リテラシーB」受講者を対象とした独自アンケートの結果から、昨年度より引き続き、講義の満足度、興味・関心、将来性等について、いずれも高い評価を獲得していることが明らかになっている。当該科目を通じてデータサイエンスという学問分野に関して興味・関心を持った学生は全体の60.0%に達しており、次の学修への意欲、動機付けになるような「学びの相乗効果」が生み出されたものと考えられる。

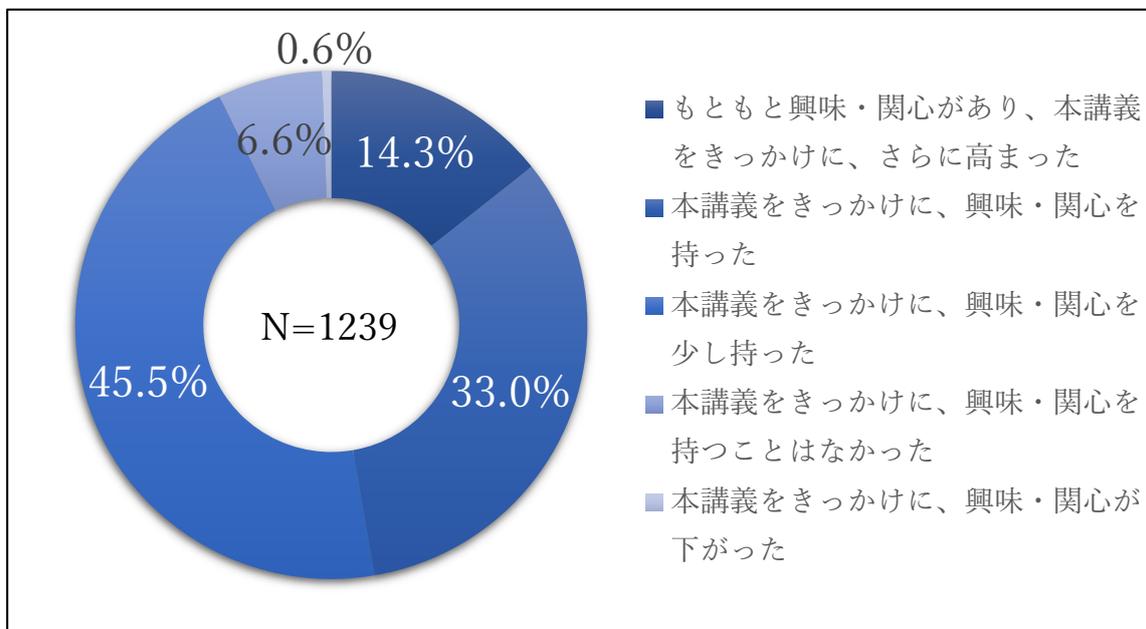
※ 全学必修科目であるため「後輩等他の学生への推奨に関する明示的な取り組み」は自己点検・評価の対象外としている。

令和5年度 情報リテラシーB 授業アンケート結果

Q. 本講義を受講しての満足度をお選びください。

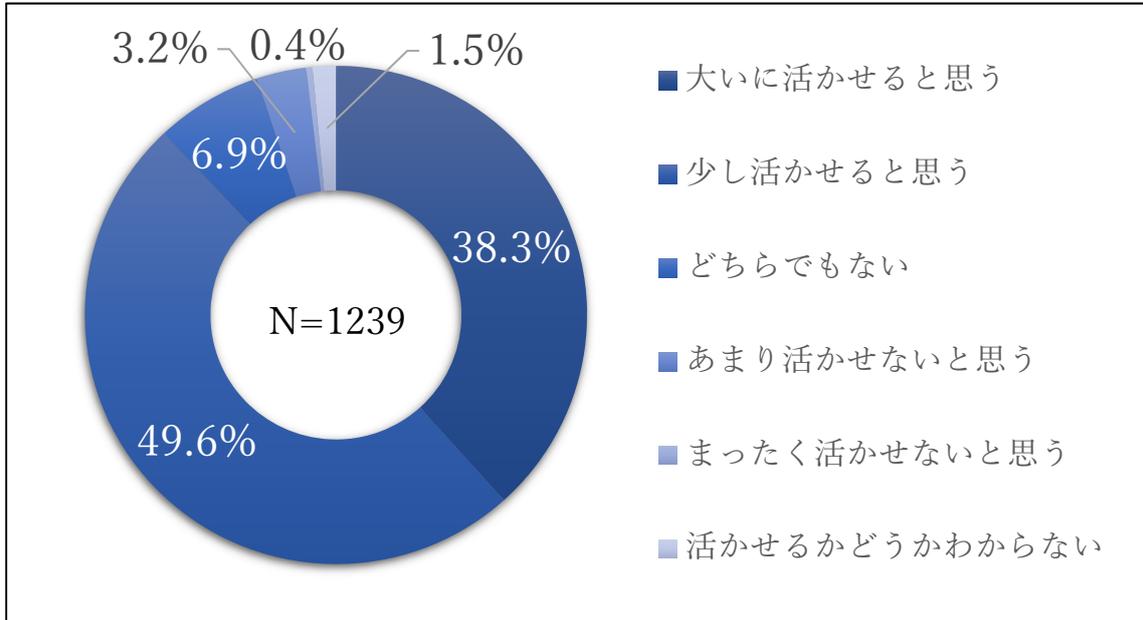


Q. 本講義を受講し、データサイエンスという学問領域に関して、あなたの考えに近いものをお選びください。

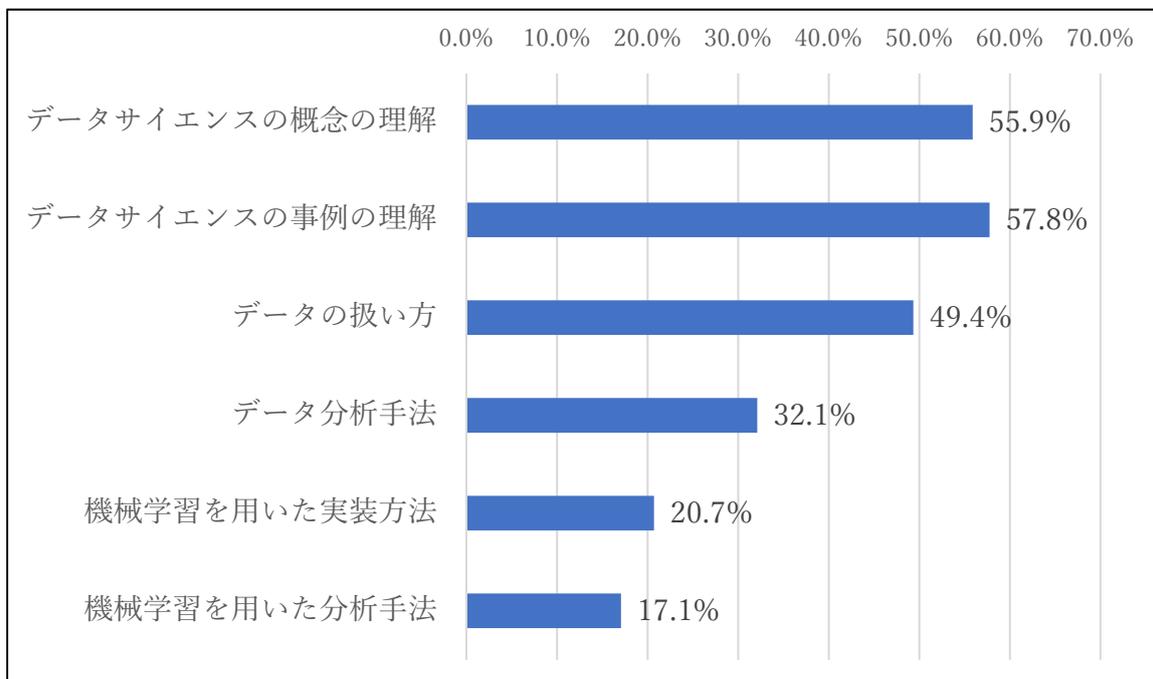


令和5年度 情報リテラシーB 授業アンケート結果

Q. 本講義で得られたデータサイエンスの知識が、あなたの将来に活かせるものだったかについて、あなたの考えをお選びください。

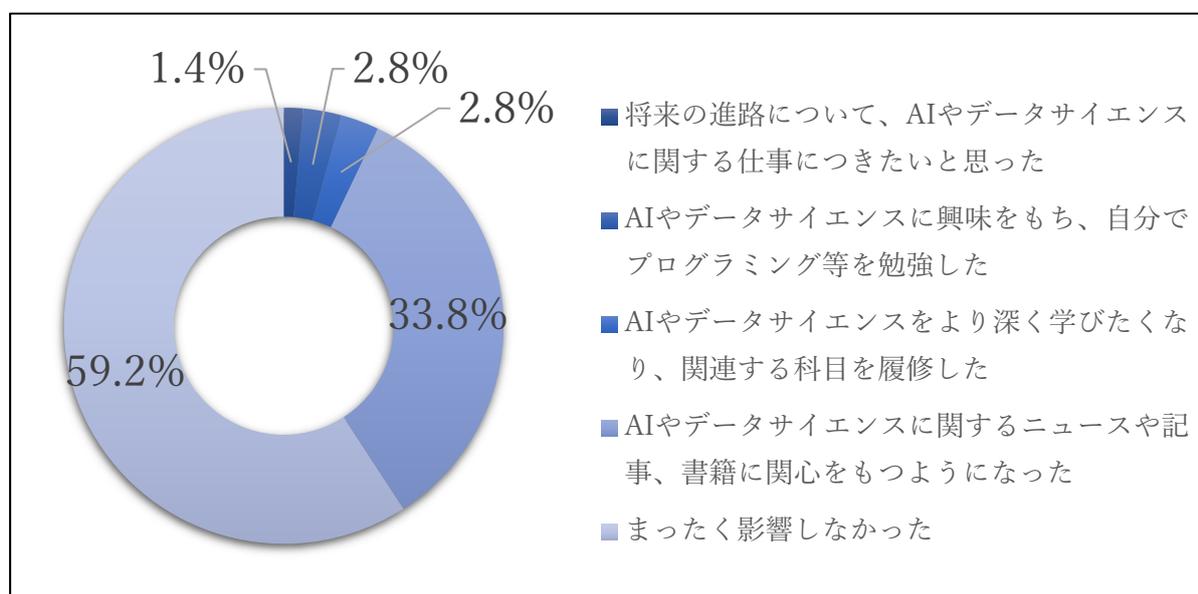


Q. 本講義を受講して、あなた自身が身についたと思うことについて、お選びください。(複数回答可)



本教育プログラムが大学生活（学修や進路選択）にどのように影響したかを把握するため、本年度も引き続き、本プログラム修了者である3年次を対象としたWebアンケート調査を実施した。調査の結果、「AIやデータサイエンスに関するニュースや記事、書籍に関心をもつようになった」と回答した学生は全体の33.8%であった。したがって、本プログラム受講が学生の大学生活に影響を及ぼしていることが示唆された。ただし、本アンケートの回収率は約5.8%であるため、これらの結果はあくまでも参考程度として受け止められるべきである。引き続き、アンケート回収率を向上させるための対策が講じられることが望まれる。

Q. 1年次の全学共通科目「情報リテラシーB」では、数理・データサイエンスの基礎を学んでいただきました。学んだことはその後の学修に影響しましたか？
次の選択肢の中から、最も近いものを選んでください。



Q. 自身の学修に役に立った点を具体的に教えてください。（自由記述）※一部抜粋

- 統計学の講義を履修した際に活用出来た。
- AIなどが関連するニュース記事をよく読むようになった。
- ITパスポートに挑戦してみようと思うきっかけになった。
- 情報に関しての真偽を考えるようになった
- 資格試験の時事問題で、AIやデータサイエンスに関する問題が出題される。時事問題を勉強する際に、DXなど情報リテラシーBで得た知識が役に立った。

Q. 後輩に具体的なアドバイスがあれば教えてください。（自由記述）※一部抜粋

- 課題は必ず提出すること
- 将来的にどこかしらの部分にはこれから役立つと思うので、覚えるよりは理解しておくことが大切だと思います。
- 大学生活で大いに活かすことができると思うので、履修をおすすめします。
- 社会人になる上で情報系の授業を受けていて損はないと思う。

- 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

※ 全学必修科目であるため、本項は自己点検・評価の対象外とした。

<学外からの視点>

- 教育プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価に関する事項

令和6年4月時点で、本教育プログラムを修了した卒業生は1122名である。本年度以降の卒業生調査において、修了生の進路先や活躍状況を把握するための体制を構築予定である。

- 産業界からの視点を含めた、教育プログラム内容・手法に関する事項

情報リテラシーBで利用可能なe-Learningコンテンツは、香川大学、株式会社ベネッセコーポレーション、および株式会社キカガクによる共同開発の成果として提供されている。株式会社ベネッセコーポレーションは多様な業態の企業を顧客に持っているため、この共同研究を通して、教育プログラムの内容・手法に産業界の視点が十分反映されている。

<改善・進化に向けた取組>

- 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

スモールステップの原則に基づき、1年次第1クォーターでは情報リテラシーAを通じてコンピュータ利用の基礎・基本を学び、続いて第2クォーターの情報リテラシーBで数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。情報リテラシーBでは、時事やトレンドを取り入れ、香川大学教員による香川県内の実践事例を交えることで、学生の好奇心を刺激する講義内容となっている。

- 内容・水準を維持・向上しつつ、「分かりやすい」授業とすること

学生からの授業評価アンケートと、株式会社ベネッセコーポレーションとの共同研究からのフィードバックを基に、情報リテラシーBの講義内容と方法を継続的に見直し、学生にとってより「分かりやすい」授業を目指す。

- 外部・内部環境を踏まえ、より教育効果の高まる授業内容・方法

情報リテラシーAは対面授業を基本としながらも、LMSを活用していつでもどこからでも講義資料を閲覧・取得できる環境を提供する。情報リテラシーBはe-Learning科目として運用されており、LMS上で講義映像の視聴が可能であるほか、学習意欲の高い学生はさらに進んだ内容のe-Learningコンテンツも利用できる。

- 全学的な履修者数・履修率向上の計画

本プログラムを構成する科目は全て全学必修科目のため、学部・学科に関係なく、全学生が履修する。履修漏れを防ぐため、1年次は、教務システムに当該科目が自動登録される。

数理情報・遠隔教育部会議（主幹）と情報リテラシー実施部会を定期的実施し、教育工学、情報工

学、人工知能などの専門分野からの意見も取り入れながら、内容の見直し等を検討し、より学生の履修を推進している。

<来年度に向けた改善内容の検討>

● 履修状況

昨年度に引き続き、プログラムの修了者数を向上させるため、授業課題の進捗が芳しくない学生に対し、メール周知により提出を促すなど、学習支援を実施する。学生が途中で履修を諦めることを防ぐため、担当教員のオフィスアワーの設定、定期的な課題締め切り等の周知により、履修継続率を高める。

● 教育プログラム修了者の進路・活躍状況

昨年度に引き続き、就職先を中心とした企業調査の仕組みを活用して、本教育プログラムを修了した卒業生における採用状況や企業評価を把握する仕組みの構築を進めるとともに、本教育プログラムが大学生活（学修や進路選択）にどのように影響したか把握するため、プログラム修了者である本学3年次生を対象に、アンケート調査を実施する。

<参考：文部科学省リンク>

● 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の創設について

<https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/suuri/ninteisousetu.pdf>

(2024/6/26 アクセス確認)

● 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）実施要綱細目

https://www.mext.go.jp/content/20210315-mxt_senmon01-000012801_004.pdf

(2024/6/26 アクセス確認)